

畜産における生産工程管理（GAP） をめぐる情勢

令和7年4月
農林水産省
畜産局畜産振興課

GAP実施の意義

○ 農業生産活動の持続性を確保するため、

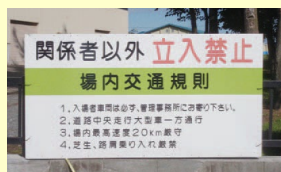
①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組。

○ GAPの実施することは、生産管理の向上、効率性の向上、労働安全の向上、農業者自身や従業員の経営意識の向上につながる等の効果があるほか、農業人材の育成・確保、我が国農業の競争力強化に有効。

JGAPの実施（例）

→ 農場内を点検し、課題や問題点を見つけ、改善。

< 食品安全・家畜衛生 >



農場・畜舎への
出入りを制限



農場内専用の長
靴・服などを着
用

< 環境保全 >



家畜排泄物を場内に
野積みしない



家畜排せつ物を堆
肥化し、農地へ還元

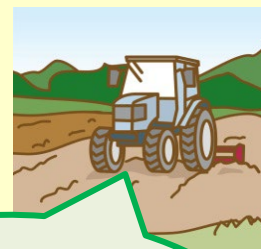
< 労働安全 >



労働災害を未然
に予防する注意
表示



落下防止柵を
設置



< 人権保護 >

- ・ 適切な労務契約・管理
- ・ 労働者との意見交換
- ・ 研修生等の受入条件の遵守

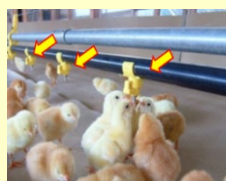
< 農場経営管理 >

- ・ 部門別責任者の配置
- ・ 教育訓練の実施、内部点検の実施

< アニマルウェルフェア >



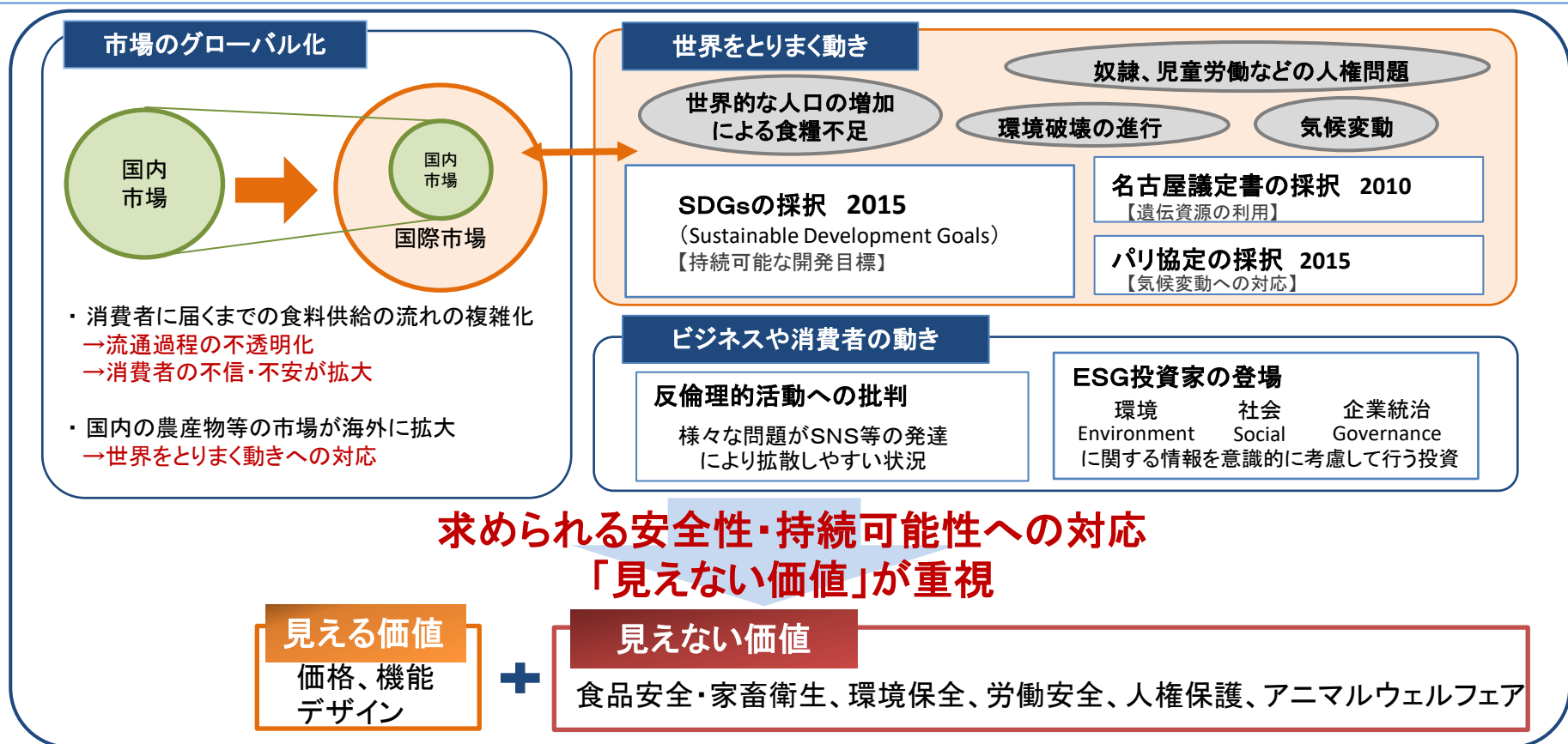
夏場の暑熱対策
や冬期の寒冷対
策を実施する



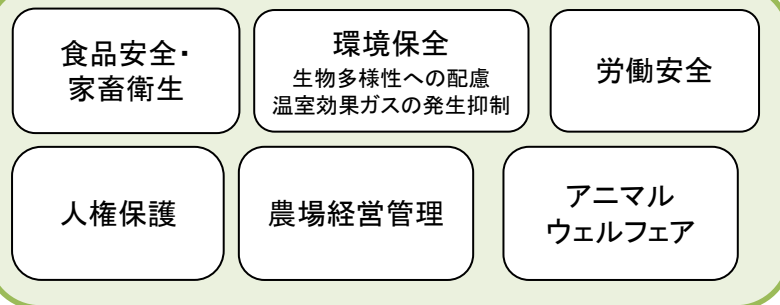
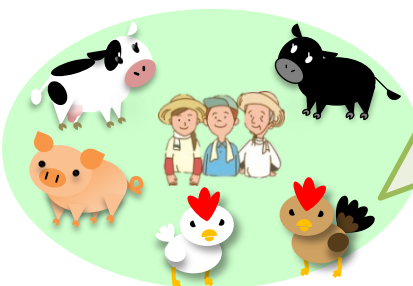
OIEの勧告に
準拠した飼養
管理指針に
則した飼育を
する

家畜や飼料生産による事故
を起こしてケガしないようヘル
メット・安全靴・手袋の着用、作
業手順の遵守等による安全性
の向上

持続可能性確保に向けたGAPの活用



国際水準GAPの実施



審査

GAP認証

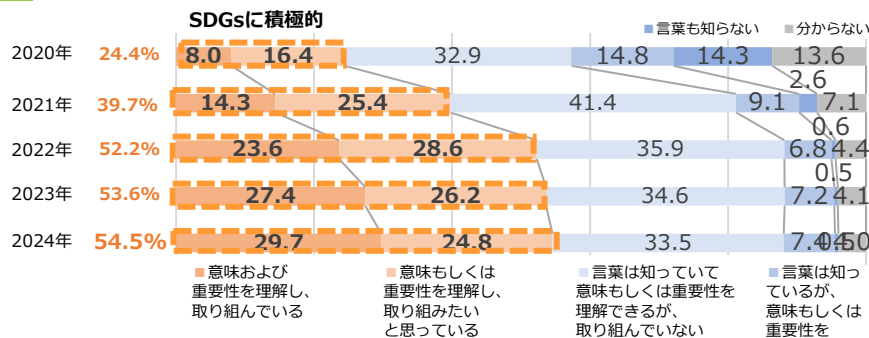
客観的な証明

「見えない価値」の見える化
→ 取引の際の信頼確保へ

持続可能な社会への関心の高まり

企業

SDGsへの理解や取組

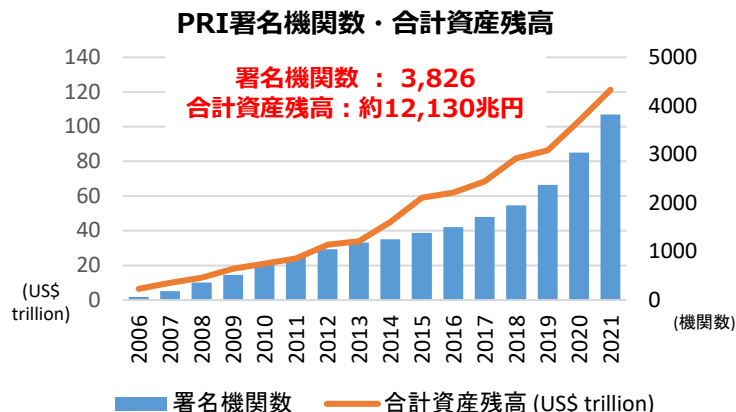


※株式会社帝国データバンク「SDGsに関する企業の意識調査（2024年）」より
 ※全国の企業向けアンケート
 （母数は有効回答企業11,068社、2023年は11,105社、2022年は11,337社、2021年は11,109社、2020年は11,275社。）

投資機関

ESG投資の動きが世界的に加速

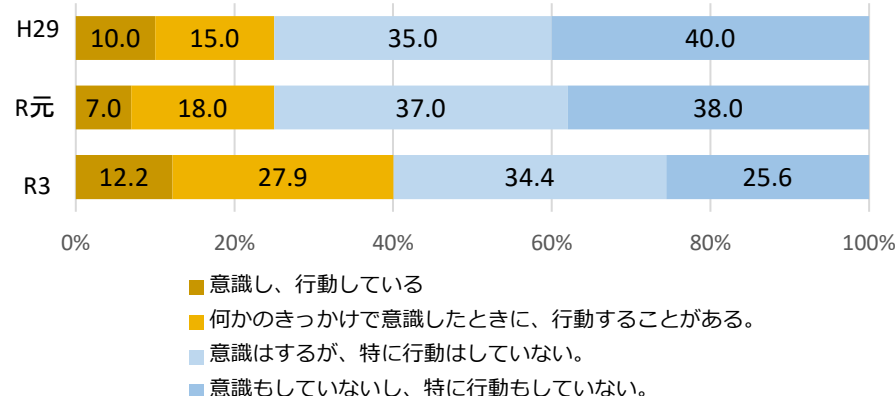
- ESG投資とは、財務情報だけでなく、**環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）**要素も考慮した投資
- 2006年、国連の支援のもと、投資にESGの視点を組み入れるを含む、「**責任投資原則（PRI）**」が発足。同原則に署名する投資機関が増加している。



※PRIホームページより

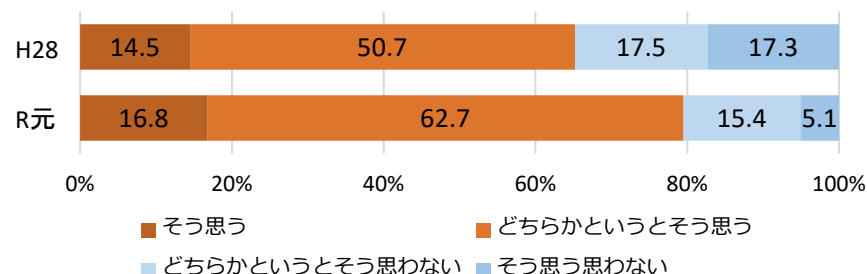
消費者

日常生活において、「SDGs」や「社会課題」を意識し、何らかの行動を起こしていますか？



※SDGs・社会課題に関する意識調査（損保ジャパン株式会社）

エシカル商品・サービスの提供が企業イメージの向上につながると思うか？



※倫理的消費（エシカル消費）とは、消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと

※「倫理的消費（エシカル消費）」に関する消費者意識調査報告書
 （消費者庁委託により株式会社インテージリサーチが調査）

○持続可能な開発のための2030アジェンダ (持続可能な開発目標 SDGs) (2015年)

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



<GAPの主なグローバル目標(GAPの取組を通じたSDGsへの貢献)>

- 2: 飢餓をゼロに
- 3: すべての人に健康と福祉を
- 4: 質の高い教育をみんなに
- 5: ジェンダー平等を実現
- 6: 安全な水とトイレを世界中に
- 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8: 働きがいも経済も
- 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12: つくる責任つかう責任
- 13: 気候変動に具体的な対策をしよう
- 14: 海の豊かさを守ろう
- 15: 陸の豊かさも守ろう
- 17: パートナーシップで目標を達成しよう

JGAP畜産の取組と関連する主な国際規格、国内法令・指針

農場管理

ISO9001
(品質マネジメントシステム)

食品安全

CODEX HACCP
ISO22000
(前提条件プログラム、
トレーサビリティ)

家畜衛生

ISO22002-3(食品安全のための前提条件プログラム)、飼養衛生管理基準、薬剤耐性対策アクションプログラム

アニマルウェルフェア

WOAHコードに沿った国の指針
(畜産局長通知)

労働安全

ISO/IEC GUIDE 51
(リスクの定義)、
労働安全衛生法

環境保全

みどりの食料システム
戦略、家畜排せつ法、
廃棄物処理法

人権の尊重

労働基準法

GAPに関する国の施策の位置付け①

食料・農業・農村基本計画(令和7年4月11日閣議決定)(抜粋)

第4 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

I 我が国の食料供給

4 農作業安全の確保と農業生産工程管理及び衛生管理

(2) GAP・HACCP の推進

畜産においても、持続可能性に配慮した生産工程管理であるGAPに加え、畜産物の安全性確保のための高度な飼養衛生管理手法である農場段階のHACCPの普及・定着を図るとともに、認証取得等を一層推進する。

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」(令和7年4月11日策定)(抜粋)

第1 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する基本的な指針

Ⅲ 持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

4 関連事項

(4) 安全確保の取組の推進

① 持続可能性に配慮した生産工程管理の推進

持続可能性に配慮した生産工程管理であるGAPや農場段階でのHACCPの実施は、食品安全や家畜衛生の向上だけでなく、生産性や生産効率の向上、経営主や従業員の経営意識の向上等につながり、人材の育成にも有効である。

消費者に安全な畜産物を安定して供給するため、持続可能性に配慮した生産工程管理であるGAPや農場段階のHACCPの普及・定着を図り、認証取得等を一層推進する。

「家畜改良増殖目標」(令和7年4月11日策定)(抜粋)

IV 豚

2 改良目標

(3) 能力向上に資する取組

④ 衛生管理

伝染性疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守の徹底について指導するとともに、さらなるバイオセキュリティの向上及び定期的な衛生検査による飼養豚の疾病の保有状況の把握を進めるためにも、農場HACCPやGAP等の生産工程管理の普及やグループ生産システム等を活用したオールイン・オールアウトの導入等の衛生対策を推進するものとする。

GAPに関する国の施策の位置付け②

「鶏の改良増殖目標」(令和7年4月11日策定)(抜粋)

Ⅱ 鶏の改良増殖目標

2 改良目標

(2)能力向上に資する取組

② 飼養管理及び衛生管理

ウ 生産者における生産管理の徹底や効率性の向上による経営基盤の強化のため、農場HACCPやGAP等の生産工程管理の普及を通じ、生産者の家畜衛生、作業安全、アニマルウェルフェア等の取組を推進する。

「養豚農業の振興に関する基本方針」(令和7年4月11日策定)(抜粋)

2 養豚農家の経営の安定に関する事項

(3)持続可能性に配慮した生産方法の導入

養豚農業における生産活動の持続性を確保するため、持続可能性に配慮した畜産物の生産の取組強化が必要なことから、**食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・人権の尊重・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行うGAPの取組**や農場HACCP(危害要因分析・必須管理点の考え方)を生産農場段階に採り入れた飼養衛生管理手法)の取組の普及・定着を促進する

「みどりの食料システム戦略」～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～ (令和3年5月12日みどりの食料システム戦略本部決定)(抜粋)

4 具体的な取組

(2)イノベーション等による持続的生産体制の構築

⑤労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大

(労働安全性の向上等)

・農作業事故等のリスクを低減し、**持続的な農業生産にも資するGAPの導入の推進**

GAPに関する国の施策の位置付け③

「SDGsアクションプラン2023」～SDGs達成に向け、未来を切り拓く～（令和5年3月17日SDGs推進本部決定）（抜粋）

「SDGsアクションプラン2023」の重点事項 優先課題3:成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

・GAP拡大推進加速化事業

持続可能な農業構造の実現の観点から、GAP指導員による指導活動、農業教育機関や環境負荷低減に取り組む団体の認証取得、GAP農産物の需要を拡大していくためのセミナー開催や商談会への出展、実需者とのマッチングの促進など、国際水準のGAPの取組の拡大に向けた取組を支援する。

畜産GAPの普及・推進体制の強化に向け、指導員等の育成、GAP認証取得等の取組、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の改善の検討への支援や民間団体による科学的知見の収集等の取組を支援する。

農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律案に対する附帯決議（令和4年5月18日 衆議院農林水産委員会）（令和4年4月7日 参議院農林水産委員会）

一～七（略）

八 日本産農林水産物・食品のブランド力を維持・向上し、競争力を強化するため、GAP認証等、世界の食市場において通用する認証の取得を更に支援するとともに、JAS等の我が国発の規格の国際標準化に向けた取組を推進すること。（略）

九～十（略）

(参考)2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準

《畜産物》

持続可能性に配慮した畜産物の調達基準(概要)

<要件>

- ① **食材の安全を確保**するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② **環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保**するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ **作業者の労働安全を確保**するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ④ **快適性に配慮した家畜の飼養管理**のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～④を満たすことを示す方法)

ア **JGAP**、

GLOBALG.A.P.、

組織委員会が認める認証
スキーム

イ 「**GAP取得チャレンジシ
テム**」に則って生産され、
第三者による確認

<要件を満たした上で推奨される事項>

・有機畜産により生産された畜産物

・エコフィードを用いて生産された畜産物

・農場HACCPの下で生産された畜産物

・放牧畜産実践農場で生産された畜産物

・障がい者が主体的に携わっ
て生産された畜産物

(海外産で、上記要件の①～④の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

<国産を優先的に選択>

(国内畜産業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である畜産物が本基準を
満たすものを、可能な限り優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

出典:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/special/watching/tokyo2020/games/sustainability/sus-code/>

畜産物個別基準：概要

概要	
対象	飲食サービスに提供される畜産物の生鮮食品及び畜産物を主要な原材料とする加工食品 生鮮食品については、本調達基準を満たすものを調達することとし、加工食品については、主要な原材料である畜産物が本調達基準を満たすものを可能な限り優先的に調達することとする。また、食品ロス削減にも配慮して調達することとする。
要件	① 食材の安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。 ② 環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。 ③ 作業者の労働安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。 ④ 作業者の人権保護を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。 ⑤ 快適性に配慮した家畜の飼養管理のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応したOIE陸生動物衛生規約等に照らして適切な措置が講じられていること。
要件への適合度が高いもの	● JGAPの認証を受けて生産されたもの ● 博覧会協会が認める認証スキームによる認証を受けて生産された畜産物
留意点等	● 畜産物の輸送にかかる温室効果ガスの排出量や地域の資源循環、地域の経済の活性化への貢献度から、開催国内で持続可能性を踏まえて生産された畜産物の利用に配慮すべき。 ● ただし、サプライヤーが、WTO政府調達協定の対象となる政府調達として調達を行う場合には、同協定を遵守しつつこれを検討しなければならない。 ● 海外産の畜産物で、上記要件を満たすことの確認が困難なものについては、フェアトレードの取組によるもの等、博覧会協会が認める持続可能性に資する取組に基づいて生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先すべき。
調達計画・結果の報告	● 博覧会協会が求める調達に関する計画及び結果を原則報告しなければならない。 ● 生鮮食品について、「要件への適合度が高いもの等」の畜産物の調達が困難な場合には、調達計画及び結果にその量、理由及び上記要件の遵守に向けた取組内容を記載しなければならない。
推奨	要件に加え、生産者における持続可能性の向上に資する取組を一層促進する観点から、以下の畜産物を最大限調達することが推奨される。これらの取組を行うことを宣言したサプライヤーは、その取組内容および調達状況を公表する。博覧会協会は優れた取組事例を博覧会協会HP等にて公表するとともに表彰する。 ● <u>持続的な畜産物生産に取組む酪農・畜産農家が生産した畜産物</u> <u>有機畜産により生産された畜産物、農場HACCPの下で生産された畜産物、エコフィードを用いて生産された畜産物、放牧畜産実践農場で生産された畜産物、障がい者が主体的に携わって生産された畜産物、温室効果ガス削減飼料で生産された畜産物、強制発酵施設等で家畜排せつ物を処理する生産者が生産した畜産物、国産飼料で生産された畜産物、持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉（JAS0013認証品）、循環型有畜複合生産農場で生産された畜産物</u> ● 博覧会協会が認めるアニマルウェルフェアに関する認証等を受けて生産された畜産物
書類保管義務等	1年間。博覧会協会が求める場合は提出しなければならない。

【参考】愛知・名古屋 2026 大会 持続可能性に配慮した調達コード

持続可能性に配慮した畜産物の調達基準(抜粋)

- 1 本調達基準の対象は、畜産物の生鮮食品及び畜産物を主要な原材料とする加工食品。
サプライヤー等は、生鮮食品については、本調達基準を満たすものを調達することとし、加工食品については、主要な原材料である畜産物が本調達基準を満たすものを可能な限り優先的に調達。食品ロス削減にも配慮して調達。
- 2 上記 1 の畜産物について、持続可能性の観点から、以下の(1)～(5)が求められる。
 - (1) 食材の安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
 - (2) 環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
 - (3) 作業者の労働安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
 - (4) 作業者の人権保護を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
 - (5) 快適性に配慮した家畜の飼養管理のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応した OIE（国際獣疫事務局）陸生動物衛生規約等に照らして適切な措置が講じられていること。
- 3 JGAPによる認証を受けて生産された畜産物については、上記 2 への適合度が高いものとして認める。
- 4 上記 3 の畜産物以外を必要とする場合は、上記 2 の観点を確認したことを持続可能性の確保に向けた取組状況に関する「チェックシート」に示し、誓約した場合に認める。

4 畜産物の調達基準の概要

対象となる畜産物

- ・ 畜産物の生鮮食品*及び畜産物を主要な原材料とする加工食品

要件への対応の証明方法

- ・ 使用する畜産物について、記録した書類を本園芸博終了後から**1年間保管**し、協会が求める場合は、これを提出しなければならない

【満たすべき要件】

- (1) 食材の安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産国等の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること
- (2) 環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産国等の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること
- (3) 作業者の労働安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産国等の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること
- (4) 作業者の人権保護を確保するため、畜産物の生産に当たり、生産国等の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること
- (5) 快適性に配慮した家畜の飼養管理のため、アニマルウェルフェアの考え方に対応したOIE（国際獣疫事務局）陸生動物衛生規約等に照らして適切な措置が講じられていること

【要件(1)～(5)を満たすことを示す方法】

● JGAP認証の取得

- 認証を取得していない場合は、環境負荷の低減に取り組むことについて、公的機関等による第三者の確認を受けている

【海外産等で要件の確認が困難な場合】

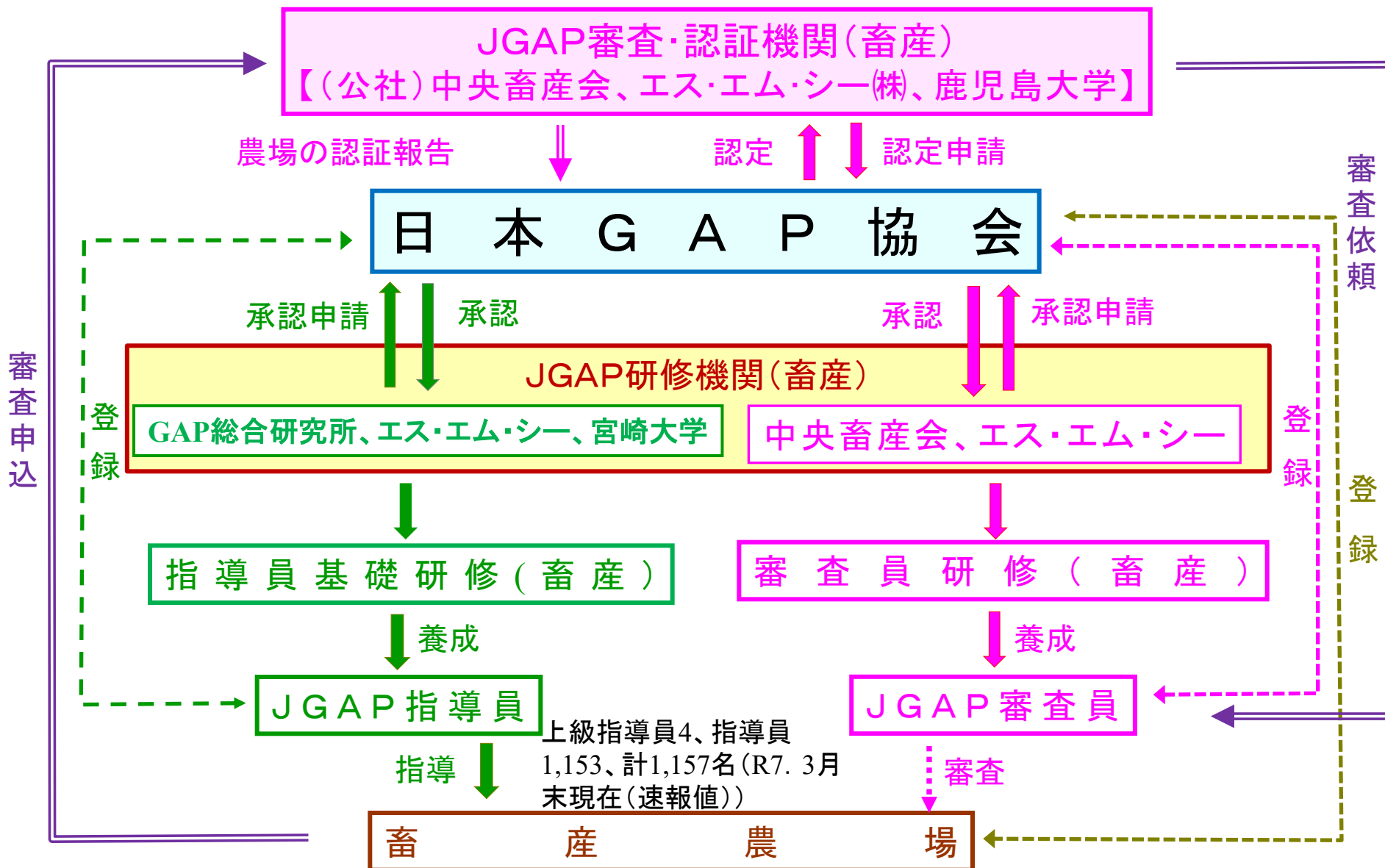
- フェアトレードの取組によるもの等、持続可能性に資する取組に基づいて生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先的に調達すべき

【要件を満たした上で推奨される事項】

持続的な畜産物生産に取り組む酪農・畜産農家が生産した畜産物を最大限調達すること

※食品表示法に基づく食品表示基準において、生鮮食品として別表第二に掲げられた畜産物に該当するもの 9

JGAP畜産の審査・認証体制及び指導体制

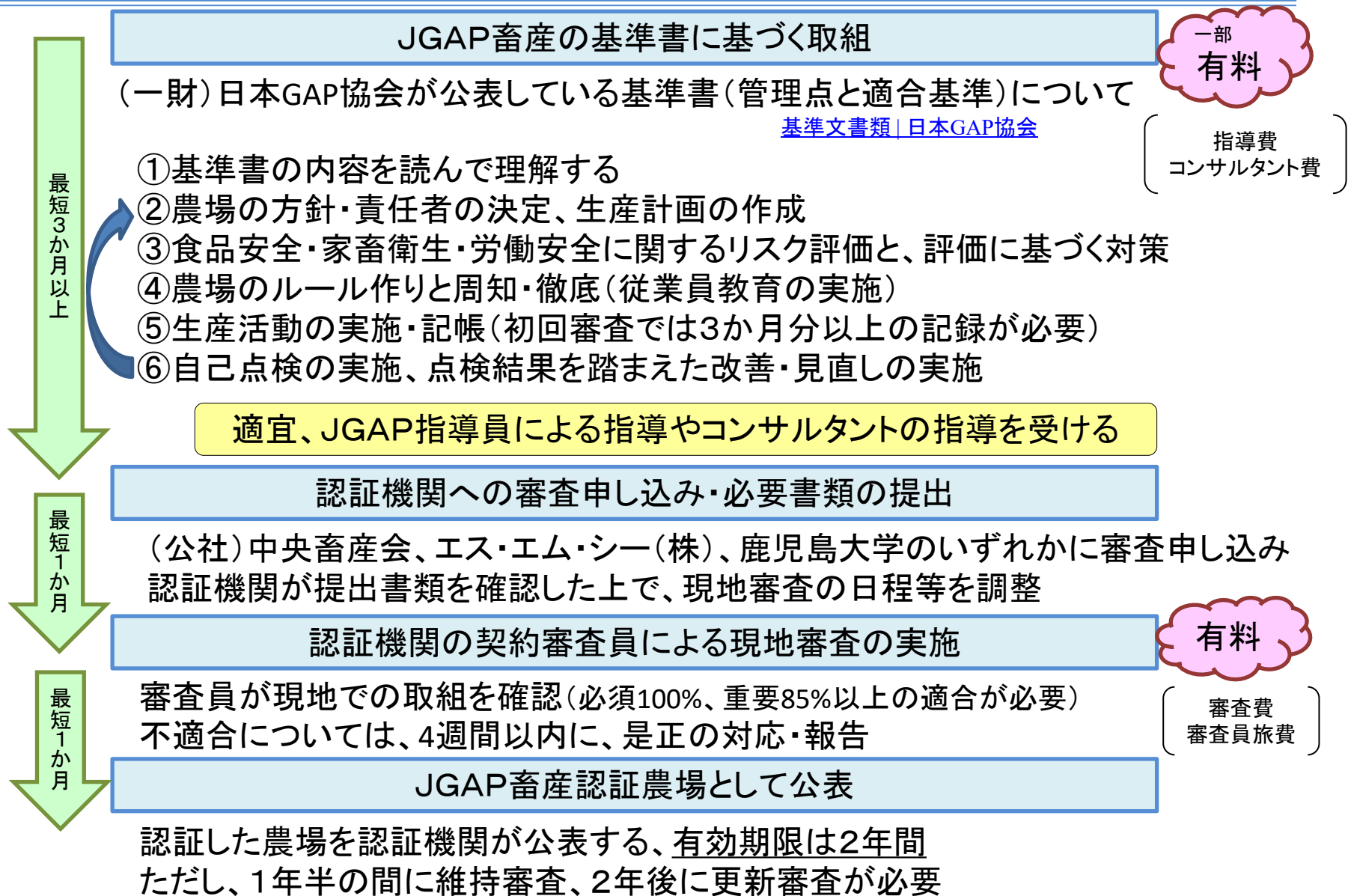


都道府県別のJGAP畜産指導員数 (速報値 令和7年3月末現在)

都道府県名	指導員数	都道府県名	指導員数	都道府県名	指導員数	都道府県名	指導員数	都道府県名	指導員数
北海道	212	埼玉県	6	福井県	2	鳥取県	13	佐賀県	3
青森県	46	千葉県	22	岐阜県	10	島根県	24	長崎県	3
岩手県	50	東京都	45	愛知県	29	岡山県	3	熊本県	41
宮城県	41	神奈川県	24	三重県	14	広島県	7	大分県	5
秋田県	12	山梨県	2	滋賀県	4	山口県	5	宮崎県	95
山形県	19	長野県	7	京都府	6	徳島県	26	鹿児島県	38
福島県	107	静岡県	18	大阪府	3	香川県	10	沖縄県	2
茨城県	30	新潟県	2	兵庫県	38	愛媛県	4		
栃木県	27	富山県	6	奈良県	0	高知県	0	合計	1,157
群馬県	79	石川県	2	和歌山県	0	福岡県	15		

出典: (一財)日本GAP協会調べ

JGAP畜産の認証までの流れ(例)



畜産におけるGAPの取組について

畜産における農業生産工程管理(Good Agricultural Practices)とは

農業生産活動の持続性を確保するため、

①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のこと。

畜産におけるGAPの推進状況(2025年3月31日時点)

単位:農場

	合計	畜種別					
		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	備考
JGAP畜産認証取得農場数	延べ294	60	78	59	55	17	実数:269農場

注1:1つの農場で複数の畜種において認証取得している経営体があることから各畜種の合計と延べ数とは一致しない。

2:年度途中での認証の返上や品目の変更については反映していない。

(参考) 認証取得農場検索:一般財団法人日本GAP協会 [認証取得 | 日本GAP協会](#)

・2017年3月31日にJGAP家畜・畜産物の基準書を公表、同年8月21日から農場の認証を開始。

<審査認証機関>

公益社団法人中央畜産会 [JGAP認証農場の公表について | JLIA | 公益社団法人 中央畜産会 \(lin.gr.jp\)](#)

エス・エム・シー(株) [JGAP認証農場一覧 | エス・エム・シー株式会社 \(S.M.C\) \(swine-smc.co.jp\)](#)

鹿児島大学共同獣医学部 [JGAP認証推進室 | 鹿児島大学 共同獣医学部 \(kagoshima-u.ac.jp\)](#)

JGAP畜産認証取得農場

令和7年3月31日現在

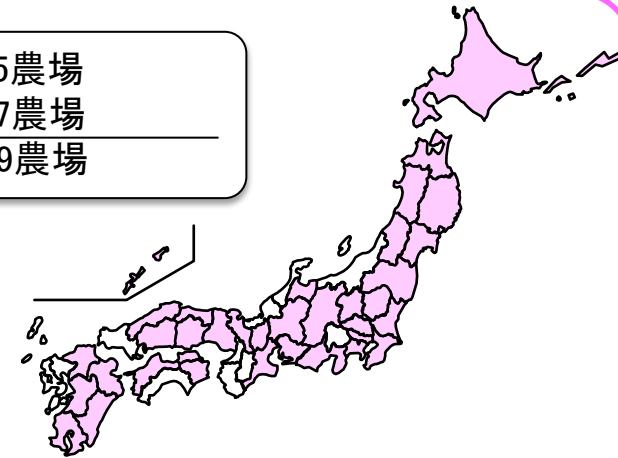
乳用牛 : 60農場
肉用牛 : 78農場
豚 : 59農場

採卵鶏 : 55農場
肉用鶏 : 17農場
計 : 269農場

<乳用牛>

・団体認証取得農場: 2団体

北海道	株式会社Kalm角山
	アットファーム株式会社
	株式会社学林ファーム(肉用牛を含む)
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
	北海道農業研究センター(肉用牛を含む)
	株式会社KI(肉用牛を含む)
	北海道中標津農業高等学校
	株式会社ナガホロ(肉用牛を含む)
	有限会社石川ファーム ◎
	株式会社柏葉ファーム ◎
	有限会社田口畜産
	村上牧場
	株式会社鈴木久名牧場
	及川牧場
	株式会社SEA-LAKE(肉用牛を含む)
	株式会社E・H・F ◎
	有限会社ジェイファームシマザキ □
	有限会社ヤグテッチ □
	大山牧場 □
	ノーサンファーム株式会社
	株式会社中條牧場ノースウッドファーム(肉用牛を含む)
	株式会社RARA Farm 中標津(肉用牛を含む)
	有限会社バイナランドデリー
	株式会社びえい牧場
	穴吹牧場
	株式会社INFINI
	武藤牧場 □
	新井牧場 □
	有限会社鹿毛牧場 □
	柏木牧場 □
	有限会社藤井牧場
	株式会社まろにえふあーむ
	地方独立行政法人北海道立総合研究機構酪農試験場
	株式会社カズワンファーム(肉用牛を含む)
	今井牧場
	北海道岩見沢農業高等学校(肉用牛を含む)
	北海道静内農業高等学校
	穴吹牧場 □
	株式会社伊藤デリー(肉用牛を含む)
	目黒牧場
	株式会社TACSしべちゃ



北海道	福田牧場 □
	天野牧場 □
	株式会社GOOD FARM □
	株式会社A-raise Farm □
	株式会社OSAKA FARMS □
	有限会社鈴木牧場 □
	有限会社MFデリー □
	武隈牧場 □
	北海道更別農業高等学校
	独立行政法人家畜改良センター岩手牧場
岩手県	岩手県立農業大学校(肉用牛を含む)
山形県	はまだ牧場
福島県	ファームつばさ(肉用牛を含む)
	福島県立岩瀬農業高等学校(肉用牛・採卵鶏を含む)
栃木県	国立大学法人宇都宮大学農学部附属農場(肉用牛を含む)
	有限会社瑞穂農場那須支店(肉用牛を含む)
神奈川県	株式会社石田牧場
石川県	株式会社ホリ牧場
鳥取県	鳥取県立農業大学校(肉用牛を含む)
宮崎県	株式会社松浦牧場

◎団体名: 津別町有機酪農研究会

□団体名: ちえのわ事業協同組合

* 農場によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

＜肉用牛＞

・団体認証取得農場:3団体

北海道	株式会社トップファーム本場
	サロマ牛肥育センター株式会社本場栃木分場
	パシフィックファーム株式会社本場
	株式会社ホクチクファーム標茶分場
	株式会社敷島ファーム白老牧場
	有限会社長沼ファーム本場
	株式会社エフシーエス
	株式会社まつもと牧場
	株式会社カネダイ大橋牧場(乳用牛を含む)
	有限会社長沼ファーム安平事業所
	北海道俱知安農業高等学校
	株式会社十勝ふじや牧場
青森県	株式会社大野ファームグループ
岩手県	独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場
山形県	株式会社遠野牧場
	有限会社スカイファームおざき芦沢農場
	株式会社蔵王ファーム山形蔵王牧場
	姫城中川ファーム
福島県	有限会社水上畜産
茨城県	福島県立磐城農業高等学校(採卵鶏を含む)
	有限会社瑞穂農場本社肥育育成部
	有限会社鬼怒グリーンファーム国生本場
	有限会社鬼怒グリーンファーム坂手農場
	有限会社鬼怒グリーンファーム酒寄牧場
栃木県	株式会社永田牧場
	栃木県立鹿沼南高等学校
群馬県	有限会社鳥山牧場
	有限会社ビクトリー
	株式会社体育成会議
富山県	富山県立中央農業高等学校肉用牛舎
岐阜県	株式会社飛騨萩原畜産
	株式会社安立ファーム江東牧場
三重県	株式会社社長太屋松阪牧場
	有限会社伊藤牧場
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第一牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム七保第二牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第三牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第四牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第五牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム松阪第六牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第七牧場 ○
	有限会社竹内牧場
	三重萩牧場
	株式会社前川農場
滋賀県	有限会社澤井牧場第2牧場
	大吉畜産株式会社第3農場

鳥取県	独立行政法人家畜改良センター鳥取牧場
島根県	有限会社かつべ種畜牧場
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター大田研究拠点
岡山県	有限会社中央牧場
徳島県	株式会社藤原ファーム
	長谷川グループ牧場
	義岡ファーム株式会社赤坂牧場
香川県	間島真司
	株式会社多田牧場
熊本県	山種易産業株式会社
	独立行政法人家畜改良センター熊本牧場
	株式会社矢岳牧場矢岳第2牧場 ■
	株式会社高原牧場
	株式会社やました牧場
大分県	熊本県立農業大学校(乳用牛を含む)
	株式会社スギモトファーム山香牧場 ■
宮崎県	株式会社スギモトファーム久住牧場 ■
	株式会社スギモトファーム野尻湖牧場 ■
	宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター住吉フィールド(牧場)(乳用牛、豚を含む)
	宮崎県立農業大学校(乳用牛を含む)
	独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場
	コトブキファームグループ有限会社牛徳産業
	高野牧場A牧場 ☆
	高野牧場B牧場 ☆
	紅葉牧場 ☆
	マミー牧場 ☆
鹿児島県	有限会社アグテック
	鹿児島県立農業大学校畜産学部(乳用牛・豚を含む)
	鹿児島県経済連田代肥育牛センター
	株式会社尾崎牧場
沖縄県	琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター
○団体名:瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム	
■団体名:杉本店グループ	
☆団体名:ナニワランチグループ	

* 農場によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

<豚>

・団体認証取得農場:1団体

北海道	トントス浜中株式会社 有限会社道南アグロ 株式会社十勝野ポーク おおやファーム株式会社 ルスツ羊蹄ファーム株式会社 有限会社浅野農場 株式会社ドリームポーク 有限会社山中畜産千歳農場 株式会社ほべつすわいん 有限会社ビクトリーポーク登別農場 有限会社中多寄農場白山農場 株式会社サバイファーム
	株式会社木村牧場 有限会社みのる養豚第三農場 有限会社みのる養豚第四農場 有限会社みのる養豚第五農場 株式会社三沢農場三沢肥育農場
	株式会社アーク藤沢農場 株式会社アーク花泉農場 みなみよ〜とん株式会社 ● 株式会社フリーデン大東農場 ● 株式会社南部ファーム
	株式会社サイボクファーム 有限会社森吉牧場 ● ボークランド 十和田湖高原ファーム ファームランド バイオランド
	株式会社平田牧場平田第一農場 株式会社平田牧場平田第二農場 株式会社大商金山牧場米の娘ファーム 株式会社山形戸沢ファーム
	株式会社木野内ファーム 株式会社フリーデン都路農場 ●
	有限会社中村畜産 独立行政法人家畜改良センター茨城牧場 有限会社山野商事
	株式会社大平牧場 ● 株式会社フリーデン梨木農場 ● 群馬県立勢多農林高等学校上泉農場養豚部 株式会社YAMAKOSHI FARM 利根沼田ドリームファーム株式会社
	有限会社ジェリービーンズ多古農場 古川畜産
	有限会社吉野ジービーファーム白川農場 有限会社吉野ジービーファーム中津川農場
青森県	株式会社プリオ 三重県立明野高等学校豚舎 有限会社クボタビッグファーム
	JAえひめアイ/バックス株式会社せと風ファーム
	JA北九州ファーム株式会社玉名農場 有限会社エムケイ商事 崎山農場(肥育) JA宮崎経済連養豚実証白鳥繁殖農場 JAみやざき養豚実証綾繁殖農場 JAみやざき養豚実証山田第三肥育農場
	南州農場株式会社佐多農場 南州農場株式会社AIセンター 南州農場株式会社根占農場 社会福祉法人白鳩会花の木農場 ●団体名:株式会社フリーデン
岩手県	
宮城県	
秋田県	
山形県	
福島県	
茨城県	
栃木県	
群馬県	
埼玉県	
千葉県	
長野県	
静岡県	
愛知県	
三重県	
京都府	
兵庫県	
広島県	
福岡県	
熊本県	
宮崎県	
鹿児島県	

<採卵鶏>

北海道	株式会社ホクリヨウ札幌農場 株式会社ホクリヨウ千歳農場
	有限会社ノースランド 有限会社東北ファーム
	株式会社ホクリヨウ盛岡農場 株式会社ホクリヨウはまなす農場 株式会社アーク牧場事業部農牧部(養鶏場)
	たまぎ&カンパニー東北株式会社色麻ファーム
	株式会社中条たまご 農事組合法人樽見内耕新農場
	社会福祉法人こころん こころんファーム養鶏場 有限会社酒井養鶏場石川農場
	有限会社つくばファーム サンリーファーム株式会社
	株式会社横浜ファーム下妻農場 千葉丸ト販売株式会社水戸北部農園 たまご&ファーマーズ株式会社八千代ファーム 有限会社ナリタファーム
	株式会社トマル茂木のたまご 株式会社トマルみさと農場 株式会社トマル西ハルナファーム
	株式会社トマル大室農場 株式会社トマルタチバナファーム 株式会社トマル赤城養鶏 株式会社ユキヒラ・エッグ
千葉県	株式会社ナチュラファーム 有限会社いすみポートリー 株式会社エムイーシーフーズ木更津農場 株式会社横浜ファーム君津農場 有限会社高津農場
	農事組合法人会田共同養鶏組合本場
	株式会社富士山ポートリー 株式会社あざざり宝山ファーム
	株式会社ディリーファーム成鶏農場 独立行政法人家畜改良センター岡崎牧場
	たまご&ファーマーズ株式会社伊賀ファーム
	有限会社グリーンファームソーゴ 有限会社たまごの郷 有限会社レイ 株式会社ディリーエッグ 有限会社藤橋家姫路ポートリーファーム
	株式会社東城ポートリー東城農場 株式会社東城ポートリー竹森農場 株式会社東城ポートリー庄原農場 株式会社東城ポートリー南山農場 有限会社久井ポートリー育成部門 有限会社グリーンファーム
	JR九州ファーム株式会社飯塚事業所 トップ卵ファーム株式会社志志農場 トップ卵ファーム株式会社美里農場
	フュージョン株式会社本社第1.2農場 フュージョン株式会社新富農場
	南九州エッグシステム株式会社眩ヶ山農場 南九州エッグシステム株式会社末吉農場 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

<肉用鶏>

・団体認証取得農場:1団体

山形県	株式会社アイオイ 観音寺ファーム、三ノ平ファーム 株式会社アイオイ 鶴ヶ平ファーム
	佐藤卓也 ★ 佐藤伝一 ★ 武藤芳守 ★ 佐久間清 ★ 佐藤光時 ★ 斎藤正博 ★ 菅野幹男 ★ 菅野イツミ ★ 佐藤富夫 ★ 斎藤克弘 ★ 菅野清助 ★ 有限会社川俣シャモファーム ★ 佐藤正範 ★
	株式会社青木養鶏場
	鹿児島県 鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社福山モデル農場
福島県	
静岡県	
鹿児島県	

★団体名:川俣シャモ振興会

* 農場によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

農業高校等におけるGAP認証等取得状況（令和7年3月31日現在）

・12校の農業高校と8校の農業大学校・大学が第三者機関によるGAP認証を取得。（JGAP畜産：20校）

<農業高校>

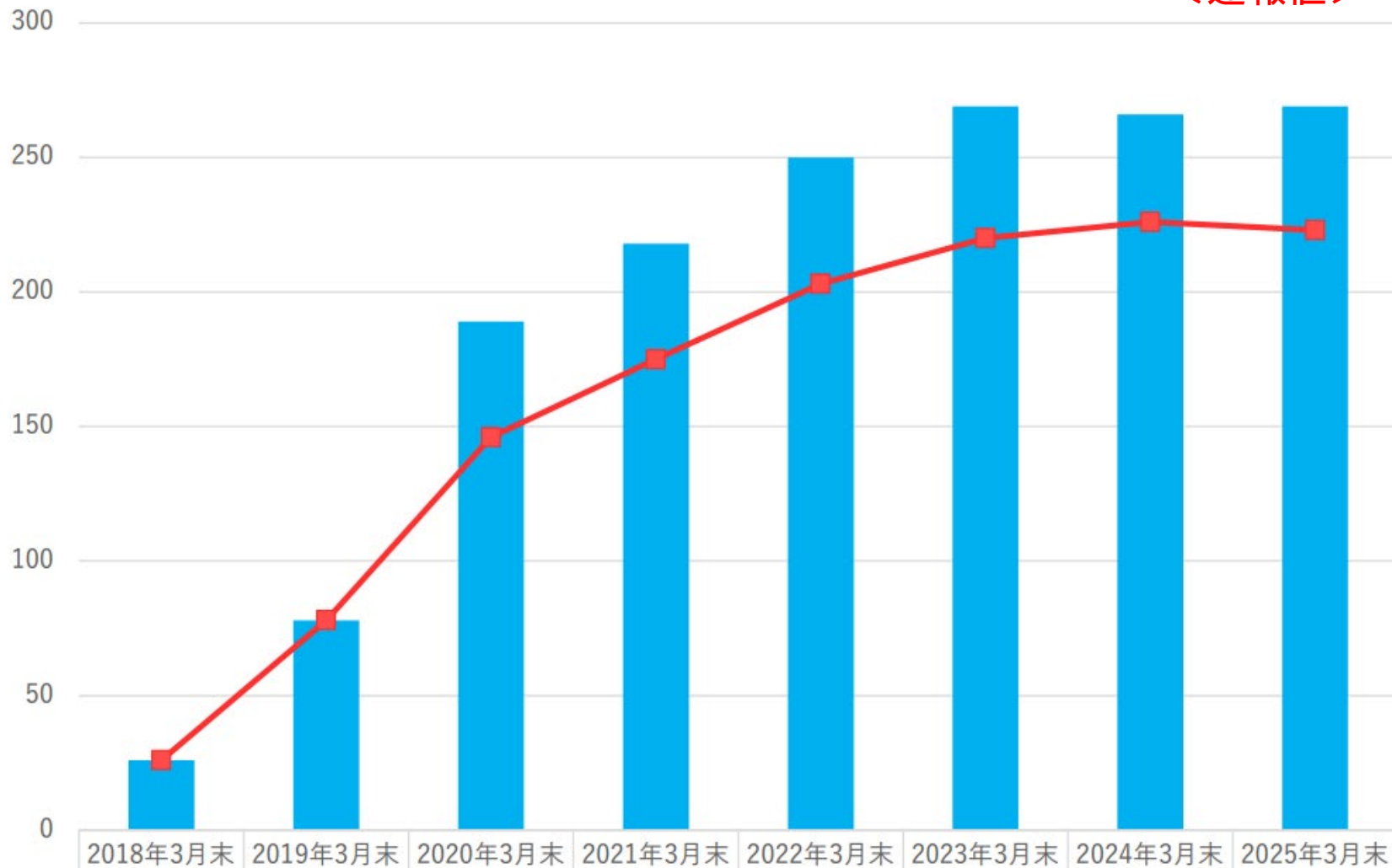
	学校名		畜 種
1	北海道	中標津農業高等学校	乳用牛
2	北海道	俱知安農業高等学校	肉用牛
3	北海道	岩見沢農業高等学校	乳用牛、肉用牛
4	北海道	静内農業高等学校	乳用牛
5	北海道	更別農業高等学校	乳用牛
6	福島県	岩瀬農業高等学校	乳用牛、肉用牛、採卵鶏
7	福島県	磐城農業高等学校	肉用牛、採卵鶏
8	栃木県	鹿沼南高等学校	肉用牛
9	群馬県	勢多農林高等学校	豚
10	富山県	中央農業高等学校	肉用牛
11	三重県	明野高等学校	豚
12	鹿児島県	鹿屋農業高等学校	採卵鶏

<農業大学校・大学>

	学校名		畜 種
1	岩手県	農業大学校	乳用牛、肉用牛
2	栃木県	宇都宮大学	乳用牛、肉用牛
3	鳥取県	農業大学校	乳用牛、肉用牛
4	熊本県	農業大学校	肉用牛、乳用牛
5	宮崎県	宮崎大学	肉用牛、豚、乳用牛
6	宮崎県	農業大学校	肉用牛、乳用牛
7	鹿児島県	農業大学校	肉用牛、乳用牛、豚
8	沖縄県	琉球大学	肉用牛

認証数と認証農場数の推移

＜速報値＞



農場数	26	78	189	218	250	269	266	269
認証数	26	78	146	175	203	220	226	223

都道府県別のJGAP畜産認証取得農場数 (令和7年3月31現在)

都道府県名	経営体数	都道府県名	経営体数	都道府県名	経営体数	都道府県名	経営体数	都道府県名	経営体数
北海道	77	埼玉県	1	福井県	0	鳥取県	2	佐賀県	0
青森県	8	千葉県	5	岐阜県	4	島根県	2	長崎県	0
岩手県	11	東京都	1	愛知県	3	岡山県	1	熊本県	8
宮城県	2	神奈川県	1	三重県	15	広島県	6	大分県	2
秋田県	7	山梨県	0	滋賀県	2	山口県	0	宮崎県	17
山形県	11	長野県	1	京都府	1	徳島県	3	鹿児島県	11
福島県	20	静岡県	3	大阪府	0	香川県	3	沖縄県	1
茨城県	13	新潟県	0	兵庫県	4	愛媛県	1		
栃木県	5	富山県	1	奈良県	0	高知県	0	合計	269
群馬県	14	石川県	1	和歌山県	0	福岡県	1		

出典：農林水産省畜産振興課調べ

輸出に取り組んでいるGAP認証取得経営体の事例

(有)鳥山牧場(群馬県;肉用牛)

■取組の概要 (平成31年3月認証取得)

グループ企業の鳥山畜産食品(株)を通じて平成25年から輸出を開始。

主に米国、シンガポール、EU、シンガポールのレストラン、精肉店、スーパー向けに輸出。同社では、特に食や環境について問題意識の高いEU諸国への輸出拡大において、JGAP認証を取得していることはサプライヤーや顧客からの信頼が得やすいと実感。

(近年の輸出実績)

令和2年度:21.2t、令和3年度:30.3t、令和4年度:27.1t

『・・・この度の『JGAP認証』取得の背景には、世界的な食品安全などの認証制度に関する要求の高まり(中略)があり、鳥山牧場では黒毛和牛100%の一貫生産牧場としていち早くこの問題に着手し、・・・』

鳥山畜産食品(株)プレスリリースより

フリーデン(株)(神奈川県;豚)

(令和元年5月 団体認証取得)※関連農場含め6経営体

■取組の概要

香港の主に百貨店やスーパー向けに豚肉を輸出。

商談では品質や食味に加え、JGAPの取組についても説明していることが商談結果につながっている。

(近年の輸出実績)

平成27年度:20.0t 令和元年度:20.8t

平成28年度:29.6t 令和2年度:7.6t

平成29年度:45.1t 令和3年度以降:0t

平成30年度:13.7t ※令和2年度途中から、CSF 発生国であることから輸出実績なし



やまと豚の加工品にGAP認証マークを表示し差別化

(株)藤原ファーム(徳島県;肉用牛)

■取組の概要 (令和元年7月認証取得)

令和3年3月から「とくしま三ツ星ビーフ」として米国へ輸出開始。米国の他、デンマーク、フランスの高級レストラン等向けに輸出。

海外バイヤーからサステナブルビーフにつながるJGAPの考え方や徳島県のJGAPを必須条件としている牛肉認証制度「とくしま三ツ星ビーフ」が評価。

(近年の輸出実績)

令和2年度:116t、令和4年度:613.9t

令和3年度:780.8t



「とくしま三ツ星ビーフ」
ゴールドスター(黒毛和種部門)
ロゴマーク

南州農場(株)佐多農場・根占農場

((鹿児島県;豚) (平成30年12月認証取得)

■取組の概要

平成21年度から香港・マカオに黒豚カット肉の輸出を開始。このほか、高級スーパー向けの黒豚原料のウィンナーやベーコン、ボンレスハム等を輸出。

(近年の輸出実績)

令和元年度:7.2t、令和4年度:47.7t

令和2年度:8.8t

令和3年度:19.1t



フュージョン(株)(宮崎県;採卵鶏) (平成30年12月認証取得)※関連農場含め5経営体

■取組の概要 平成30年10月から自社鶏卵のみのコンテナを仕立てて、香港への輸出を本格化。

(近年の輸出実績:香港) 令和元年度:531t、2年度:1,400t、3年度:1,329t、4年度:879t



●その他、(株)蔵王ファーム山形蔵王牧場(山形県;肉用牛)、(株)永田牧場(栃木県;肉用牛)、(株)トマル(群馬県;採卵鶏)、(株)ナチュラファーム(埼玉県;採卵鶏)、(株)エムイーシーフーズ(千葉県;採卵鶏)、(株)横浜ファーム君津農場(千葉県;採卵鶏)、(有)伊藤牧場(三重県;肉用牛)、(有)グリーンファームソーゴ(京都府;採卵鶏)、(株)アキタフーズ(広島県;採卵鶏)、長谷川グループ牧場(徳島県;肉用牛)、義岡ファーム(株)(徳島県;肉用牛)等で輸出実績あり

畜産GAPに取り組む主なメリット、デメリット

生産者のメリット

- 農場の整理整頓
- 作業ルールを定めることにより、無駄なコストが削減
- 資材の欠品防止、不良在庫がなくなり生産や販売計画が立てやすい
- 農作業事故の減少
- 従業員の意識が改善され、責任感、自主性が向上

生産者のデメリット

- 最初に取りまとめの時間や場合によっては費用もかかる
- 面倒
- やって当たり前だから価格には反映しない

小売業者のメリット

- 取引上選定されやすい
- 取引先と安心して取引しやすい
- 顧客に安全であること、生産工程を説明しやすい
- 第3者からの信頼度が上がる

＜対策のポイント＞

畜産物の一層の輸出拡大を図るため、生産現場におけるアニマルウェルフェア（AW）の取組を国際水準に引き上げ、AWに配慮した飼養管理の更なる普及・定着を推進するとともに、輸出先国で食品安全等の問題が検出された場合の全面輸入禁止を回避するための速やかな原因究明を可能とする体制を整備することとし、生産工程管理のトレースが条件となっている畜産GAPを普及拡大させる取組に支援します。

＜政策目標＞

AWに配慮した飼養管理の普及・定着を通じた国産畜産物に対する評価の向上

＜事業の内容＞

1. アニマルウェルフェア配慮型飼養管理推進

国のAWに配慮した飼養管理指針（畜産局長通知）の普及・定着を推進するため、生産現場における取組状況に関する調査の結果を踏まえた「実施が推奨される事項」の達成目標年の設定等の検討や科学的知見の収集及び広報コンテンツの充実等のAWに配慮した飼養管理の改善に向けた取組を支援します。

2. アニマルウェルフェア強化型畜産GAP認証取得推進

① 畜産GAP認証審査支援

畜産GAPの認証取得拡大を図るため、家畜防疫強化の観点等から審査体制を強化するための審査員の増員等に必要な取組を支援します。

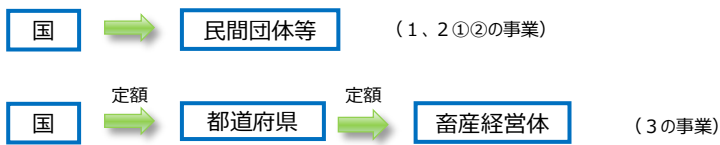
② 畜産GAP認証拡大支援

国内の実需者等に対するGAP畜産物のニーズ調査、認知度向上のための検討会、我が国の畜産物の輸出拡大のため、相手国が求めるAWの認証の準備を進めるための調査・検討等に必要な取組を支援します。

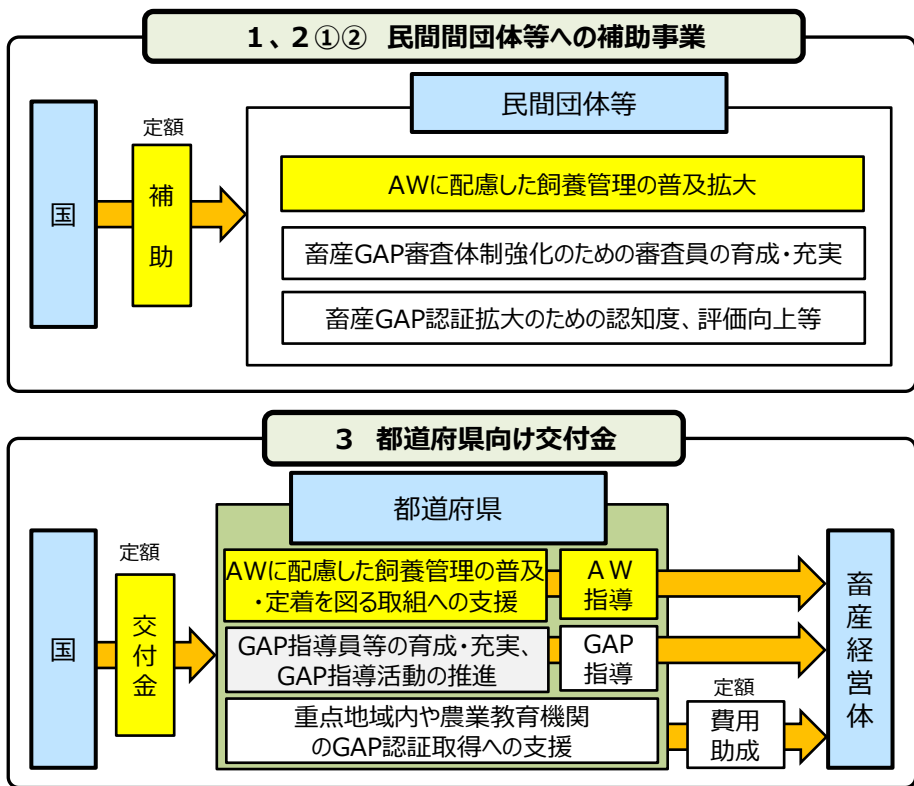
3. 持続可能性配慮型畜産推進交付金

生産者等を対象としたAWの理解醸成のための研修会、飼養管理の普及・定着を図るための現地指導、畜産GAPの取組や認証取得を加速的に進展させるための指導員の育成及び重点地域や農業教育機関の畜産GAP認証取得など都道府県の取組に対し、交付金により機動的に支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



都道府県が定める「畜産GAP認証取得重点地域」

- 畜産GAP認証の取得を加速化させるため、従来の個別認証の取得への支援を改め、都道府県が重点的にGAP認証を取得すべき地域を特定した上で、この「GAP認証取得重点地域」内において、都道府県が将来団体認証を目指す上でパイロット的役割を担うと位置付ける経営体に対して認証取得に支援する取組とする。

従来の畜産GAP認証取得への支援

個別認証の取得へ支援



【令和3年度から見直し】



「GAP認証取得重点地域」への支援

都道府県による計画認定

都道府県により支援すべき
対象地域を特定(モデル地域)
※市町村単位を想定

パイロット的
経営体のみ
認証取得を
支援

重点地域でのパイロット的
経営体をモデルとした団体
認証取得の推進

畜産GAP取組の加速化
認証取得の拡大

令和7年度持続可能性配慮型畜産推進事業のうち 畜産GAP等認証の取得の推進のための支援

<GAP認証取得重点地域内のパイロット的役割を担う経営体が個別認証を取得する場合>

認証の種別	助成額の上限
1 JGAP畜産(農場HACCPとの差分審査)	60千円
2 JGAP畜産(1以外)	150千円

注: 上限額は諸費用及び旅費を含むこととし、税抜き額とする。

<団体で認証を取得する場合>

認証の種別	助成額の上限
1 JGAP畜産(農場HACCPとの差分審査)	60千円 × (団体の構成員数の平方根 + 2)
2 JGAP畜産(1以外)	150千円 × (団体の構成員数の平方根 + 2)

注1: 上限額は諸費用及び旅費を含むこととし、税抜き額とする。

注2: 団体の構成員数の平方根については、小数点以下切り上げとする。

<留意事項>

- ・ GAP認証を、更新や継続でなく新規(GAP認証を既に取得している農業者等が、他のGAP認証を追加で取得する場合を含む。)で取得すること。
- ・ 農業の専門学科を有する教育機関は新規、維持、更新とも対象とするが、消費税等相当額は補助対象外とする。
- ・ 事業実施年度を含めた3年間、継続して認証を取得することを確約すること。

<持続可能性配慮型畜産推進交付金(農林水産省事業)>

・事業実施主体: 都道府県

・事業内容: 畜産GAPの取組について都道府県等指導員による生産者指導、研修等が受けられます。

畜産GAP認証取得に係る費用の一部助成が受けられます。

・補助率: 定額

※詳しくは、都道府県畜産主務課へお問い合わせください。

(参考)農場HACCPとJGAP畜産の認証について

概 要

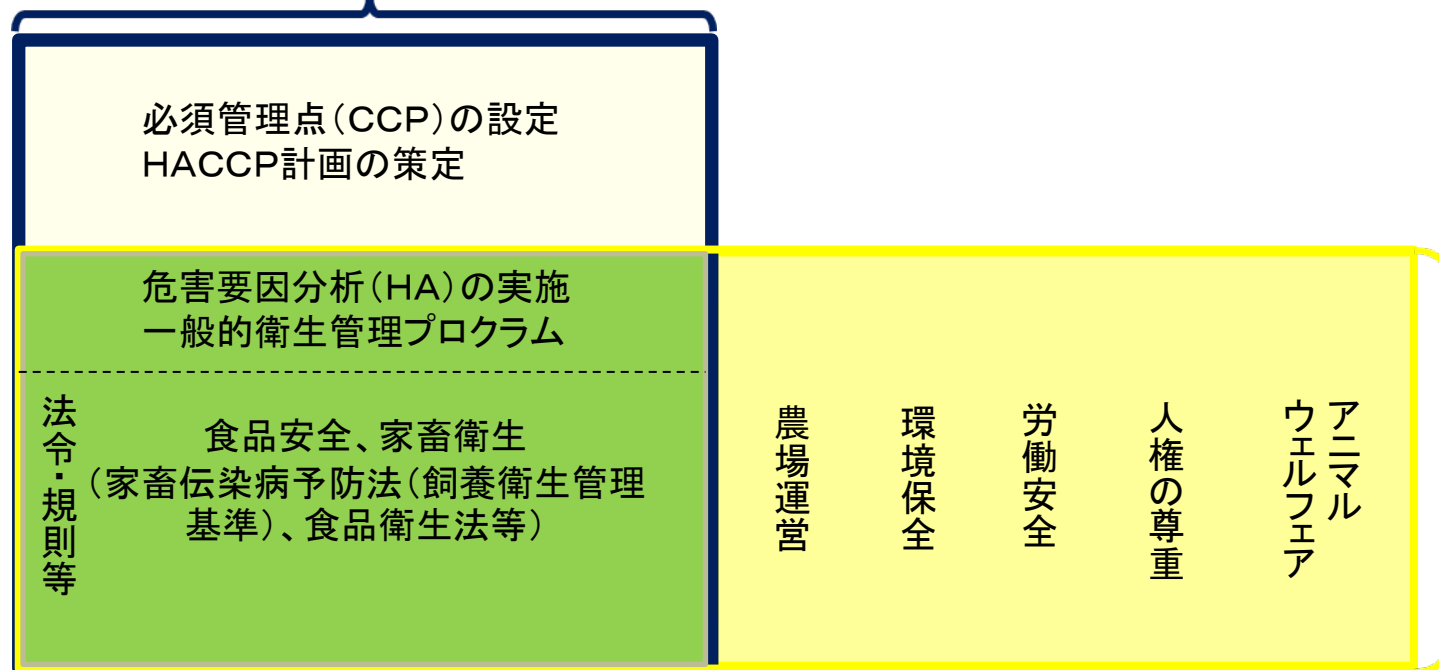
農場HACCP：畜産物の安全性向上のため、生産農場にHACCPの考え方を取り入れ、家畜の所有者自らがハザードや管理点を設定し、記録し、生産農場段階の危害要因をコントロールする飼養衛生管理の方法。

JGAP畜産：日本GAP協会により開発されたGAPのスキームの一つで、農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重及びアニマルウェルフェアの視点から適切な生産工程管理のあり方についてまとめられたもの。

<農場HACCP認証基準とJGAP畜産の基準の概念図>

農場HACCPの認証内容

以下の点を農場が設定し、運用、検証及び改善が出来ていることを認証



JGAPの認証内容
農場が左記の点について基準を満たしていることを認証